

(19)日本国特許庁(JP)

(12)登録実用新案公報(U)

(11)登録番号
実用新案登録第3249176号
(U3249176)

(45)発行日 令和6年11月20日(2024.11.20)

(24)登録日 令和6年11月12日(2024.11.12)

(51)国際特許分類

F I

A 4 5 C 9/00 (2006.01)

A 4 5 C 9/00 E

A 4 5 C 5/03 (2006.01)

A 4 5 C 5/03

評価書の請求 未請求 請求項の数 20 O L (全16頁)

(21)出願番号 実願2024-3002(U2024-3002)	(73)実用新案権者 707001241
(22)出願日 令和6年9月6日(2024.9.6)	アジア・ラゲージ株式会社
実用新案法第11条において準用する特許法第30条	東京都千代田区神田練堀町68番地ムラ
第2項適用申請有り 令和6年5月24日 https://www.makuake.com/project/gearcube/	タヤビル1階
	(74)代理人 100148714
	弁理士 川浪 圭介
	(74)代理人 100092668
	弁理士 川浪 薫
	(74)代理人 100154232
	弁理士 幸田 京子
	(74)代理人 100225347
	弁理士 鬼澤 正徳
	(72)考案者 金村 徳厚
	東京都千代田区神田練堀町68番地ムラ
	タヤビル1階 アジア・ラゲージ株式会社
	最終頁に続く

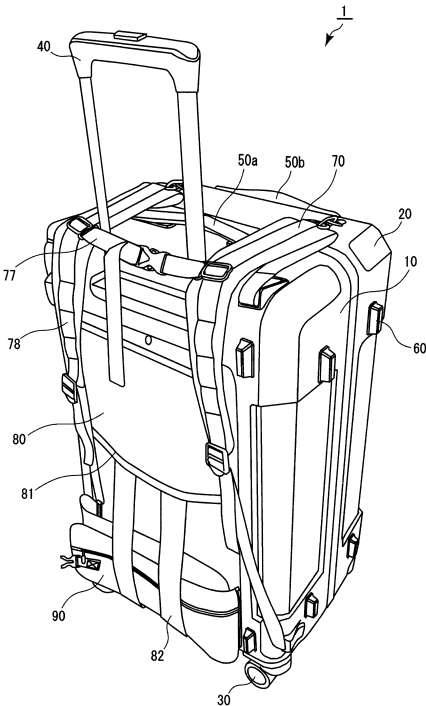
(54)【考案の名称】 スーツケース

(57)【要約】

【課題】ショルダーベルトを取り外さずに容易に収納することが可能なスーツケースを提供する。

【解決手段】スーツケース1は、第1の収納部10と、第1の収納部と対となる第2の収納部20と、一端が第1の収納部の上面に取り付けられ、他端が第1の収納部の底面側に取り付けられたショルダーベルト70と、第1の収納部の背面に取り付けられた背中パッド80と、背中パッドに設けられ、ショルダーベルトを収納可能なベルト収納ポケット81とを具備する。

【選択図】図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

第 1 の収納部と、
前記第 1 の収納部と対となる第 2 の収納部と、
一端が前記第 1 の収納部の上面に取り付けられ、他端が前記第 1 の収納部の底面側に取り付けられたショルダーベルトと、
前記第 1 の収納部の背面に取り付けられた背中パッドと、
前記背中パッドに設けられ、前記ショルダーベルトを収納可能なベルト収納ポケットとを具備することを特徴とするスーツケース。

【請求項 2】

前記第 2 の収納部と前記ショルダーベルトとを取り外し可能な連結具とをさらに具備することを特徴とする請求項 1 に記載のスーツケース。

10

【請求項 3】

前記連結具は、
前記第 2 の収納部の上面に固定された第 1 の連結具と、
前記ショルダーベルトに取り付けられた第 2 の連結具と、
前記第 1 の連結具と前記第 2 の連結具とを連結し、取り外し可能になっている第 3 の連結具と
を有することを特徴とする請求項 2 に記載のスーツケース。

【請求項 4】

前記ショルダーベルトの前記他端は、前記第 1 の収納部の前記底面側の側面に取り付けられていることを特徴とする請求項 1 に記載のスーツケース。

20

【請求項 5】

前記第 1 の収納部の前記背面に設けられた留め具取り付け部材と、
前記留め具取り付け部材及び前記背中パッドに設けられ、前記留め具取り付け部材及び前記背中パッドを取り外し可能な留め具と
をさらに具備することを特徴とする請求項 1 に記載のスーツケース。

【請求項 6】

前記留め具取り付け部材を前記第 1 の収納部の前記背面に固定する固定具とをさらに具備することを特徴とする請求項 5 に記載のスーツケース。

30

【請求項 7】

前記第 1 及び第 2 の収納部は金属製であり、
前記留め具取り付け部材は布製であり、
前記固定具は金属ネジであることを特徴とする請求項 6 に記載のスーツケース。

【請求項 8】

前記留め具は、ファスナーであることを特徴とする請求項 5 に記載のスーツケース。

【請求項 9】

前記留め具は、前記背面パッドの両側にそれぞれ設けられていることを特徴とする請求項 5 に記載のスーツケース。

【請求項 10】

前記背面パッドは、前記第 1 の収納部の前記背面から取り外し可能であることを特徴とする請求項 1 に記載のスーツケース。

40

【請求項 11】

前記背面パッドは、メッシュ製であることを特徴とする請求項 1 に記載のスーツケース。

【請求項 12】

前記ベルト収納ポケットは、前記背面パッドの中央に位置していることを特徴とする請求項 1 に記載のスーツケース。

【請求項 13】

前記背中パッドに取り付けられ、取り外し可能なウエストベルトと、

50

前記背中パッドに設けられ、前記ウエストベルトを収納可能なホールドベルトとをさらに具備することを特徴とする請求項 1 に記載のスーツケース。

【請求項 1 4】

前記第 1 の収納部の前記上面上に取り付けられたトップハンドルと、前記第 2 の収納部の上面上に取り付けられたフロントハンドルと、前記第 1 の収納部の側面上に取り付けられたサイドハンドルとをさらに具備することを特徴とする請求項 1 に記載のスーツケース。

【請求項 1 5】

前記第 2 の収納部の底面上に取り付けられたボトムハンドルとをさらに具備することを特徴とする請求項 1 4 に記載のスーツケース。

10

【請求項 1 6】

前記第 2 の収納部の表面は平坦であることを特徴とする請求項 1 に記載のスーツケース。

【請求項 1 7】

前記第 1 及び第 2 の収納部は金属製であることを特徴とする請求項 1 に記載のスーツケース。

【請求項 1 8】

前記第 1 の収納部の前記背面の四隅に設けられた台座とをさらに具備することを特徴とする請求項 1 に記載のスーツケース。

【請求項 1 9】

前記台座は、折り倒して収納可能であることを特徴とする請求項 1 8 に記載のスーツケース。

20

【請求項 2 0】

前記第 1 の収納部の前記底面に設けられた収納可能なキャスターとをさらに具備することを特徴とする請求項 1 に記載のスーツケース。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0 0 0 1】

本考案は、リュック機能を有するスーツケースに関する。

【背景技術】

30

【0 0 0 2】

スーツケースは、キャスターによって重い荷物でも軽い力で運ぶことができるため、移動時に大変重宝されている。このようなスーツケースでは、階段利用時や自転車走行時等において、リュックとして利用できるよう、肩掛け用のショルダーベルトを備えた種類も提案されている。

【0 0 0 3】

このリュック機能を有するスーツケースでは、ショルダーベルトがスーツケースに付いた状態で車輪走行すると、ショルダーベルトが垂れ下がり、地面と接して汚れたり、車輪でショルダーベルトを踏んでしまったりする恐れがある。

そこで、特許文献 1 では、車輪走行時にショルダーベルトをバッグ本体から外して収納するためのポケットを、バッグ本体の外側面に設ける提案がなされている。

40

一方、特許文献 2 では、車輪走行をする際にも、バッグ本体にショルダーベルトを装着したままで、ショルダーベルトの垂れ下がりを防止することができるショルダーベルト付きキャリアバッグが提案されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0 0 0 4】

【特許文献 1】 特開平 8 - 2 8 0 4 3 1 号公報

【特許文献 2】 実用新案登録第 3 1 6 6 5 8 7 号公報

【考案の概要】

50

【考案が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、特許文献1では、スーツケースの使用時にショルダーベルトを装着したり外したりする作業は非常に煩わしい。また、特許文献2では、ショルダーベルトの収納が複雑であり、手間がかかってしまう。

そこで、本発明は、ショルダーベルトを取り外さずに容易に収納することが可能なスーツケースを提供する。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本考案の一態様によるスーツケースは、第1の収納部と、前記第1の収納部と対となる第2の収納部と、一端が前記第1の収納部の上面に取り付けられ、他端が前記第1の収納部の底面側に取り付けられたショルダーベルトと、前記第1の収納部の背面に取り付けられた背中パッドと、前記背中パッドに設けられ、前記ショルダーベルトを収納可能なベルト収納ポケットとを具備する。

10

【0007】

前記スーツケースにおいて、前記第2の収納部と前記ショルダーベルトとを取り外し可能な連結具をさらに具備してもよい。

【0008】

前記スーツケースにおいて、前記連結具は、前記第2の収納部の上面に固定された第1の連結具と、前記ショルダーベルトに取り付けられた第2の連結具と、前記第1の連結具と前記第2の連結具とを連結し、取り外し可能になっている第3の連結具とを有してもよい。

20

【0009】

前記スーツケースにおいて、前記ショルダーベルトの前記他端は、前記第1の収納部の前記底面側の側面に取り付けられていてもよい。

【0010】

前記スーツケースにおいて、前記第1の収納部の前記背面に設けられた留め具取り付け部材と、前記留め具取り付け部材及び前記背中パッドに設けられ、前記留め具取り付け部材及び前記背中パッドを取り外し可能な留め具とをさらに具備してもよい。

【0011】

前記スーツケースにおいて、前記留め具取り付け部材を前記第1の収納部の前記背面に固定する固定具をさらに具備してもよい。

30

【0012】

前記スーツケースにおいて、前記第1及び第2の収納部は金属製であり、前記留め具取り付け部材は布製であり、前記固定具は金属ネジであってもよい。

【0013】

前記スーツケースにおいて、前記留め具は、ファスナーであってもよい。

【0014】

前記スーツケースにおいて、前記留め具は、前記背面パッドの両側にそれぞれ設けられていてもよい。

40

【0015】

前記スーツケースにおいて、前記背面パッドは、前記第1の収納部の前記背面から取り外し可能であってもよい。

【0016】

前記スーツケースにおいて、前記背面パッドは、メッシュ製であってもよい。

【0017】

前記スーツケースにおいて、前記ベルト収納ポケットは、前記背面パッドの中央に位置していてもよい。

【0018】

前記スーツケースにおいて、前記背中パッドに取り付けられ、取り外し可能なウエスト

50

ベルトと、前記背中パッドに設けられ、前記ウエストベルトを収納可能なホールドベルトとをさらに具備してもよい。

【0019】

前記スーツケースにおいて、前記第1の収納部の前記上面上に取り付けられたトップハンドルと、前記第2の収納部の上面上に取り付けられたフロントハンドルと、前記第1の収納部の側面上に取り付けられたサイドハンドルとをさらに具備してもよい。

【0020】

前記スーツケースにおいて、前記第2の収納部の底面上に取り付けられたボトムハンドルをさらに具備してもよい。

【0021】

前記スーツケースにおいて、前記第2の収納部の表面は平坦であってもよい。

【0022】

前記スーツケースにおいて、前記第1及び第2の収納部は金属製であってもよい。

【0023】

前記スーツケースにおいて、前記第1の収納部の前記背面の四隅に設けられた台座をさらに具備してもよい。

【0024】

前記スーツケースにおいて、前記台座は、折り倒して収納可能であってもよい。

【0025】

前記スーツケースにおいて、前記第1の収納部の前記底面に設けられた収納可能なキャスターをさらに具備してもよい。

【考案の効果】

【0026】

本考案は、ショルダーベルトを取り外さずに容易に収納することが可能なスーツケースを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0027】

【図1】図1は、本考案の一実施形態に係るスーツケースの斜視図を示す。

【図2】図2は、本考案の一実施形態に係るスーツケースの概略的な側面図を示す。

【図3】図3(a)及び(b)は、本考案の一実施形態に係るスーツケースのショルダーベルトを説明するための図を示す。

【図4】図4は、本考案の一実施形態に係るスーツケースの背面図を示す。

【図5】図5(a)は、本考案の一実施形態に係る背中パッドを取り外した状態のスーツケースの背面図を示し、図5(b)は、本考案の一実施形態に係るスーツケースの背中パッド及びウエストベルトの概略図を示す。

【図6】図6(a)及び(b)は、本考案の一実施形態に係る背中パッド及びウエストベルトの内側図及び外側図を示す。

【図7】図7(a)は、本考案の一実施形態に係る収納タイプのキャスターの概略図を示し、図7(b)は、本考案の一実施形態に係る収納タイプの台座の概略図を示す。

【図8】図8は、本考案の一実施形態に係るスーツケースのウエストベルトをホールドベルトに収納した状態の背面図を示す。

【図9】図9は、本考案の一実施形態に係るスーツケースのショルダーベルトをベルト収納ポケットに収納した状態の背面図を示す。

【考案を実施するための形態】

【0028】

以下、実施形態について、図面を参照して説明する。尚、以下の説明において、同一の機能及び構成を有する要素については、共通する参照符号を付す。

【0029】

[1] スーツケース

図1は、本考案の一実施形態に係るスーツケースの斜視図を示す。以下、本実施形態に

10

20

30

40

50

係るスーツケースの構成について説明する。

【0030】

図1に示すように、本考案の一実施形態に係るスーツケース1は、第1の収納部10、第2の収納部20、キャスター30、キャリアハンドル40、トップハンドル50a、フロントハンドル50b、サイドハンドル50c、ボトムハンドル50d、台座60、ショルダーベルト70、背中パッド80、ウエストベルト90を備えている。尚、スーツケース1の部品については、図示する部品に限定されず、適宜追加、変更等が可能である。

【0031】

第1の収納部10及び第2の収納部20は、対となり、箱型の形状を有している。第1の収納部10及び第2の収納部20は、金属製、プラスチック製、布製等で形成されている。第1の収納部10及び第2の収納部20が金属製の場合、例えば、それぞれ一枚のアルミニウムを含む金属（例えば、アルミニウム、アルミニウム合金等）板からなり、プレスにより所望の形状に形成されている。第1の収納部10及び第2の収納部20がプラスチック製の場合、例えば、ABS樹脂やポリカーボネート等からなる。但し、第1の収納部10及び第2の収納部20の形状、素材等については、種々変更可能である。

10

【0032】

第2の収納部20の表面は、平坦になっている。これにより、スーツケース1を横に倒し、第2の収納部20の表面側をテーブルとして使用することができる。

【0033】

第1の収納部10及び第2の収納部20の開閉部分は、フレームタイプでも、ファスナータイプでもよい。第1の収納部10及び第2の収納部20の開閉部分に拡張用ファスナーを設けることで、スーツケース1の容量を拡張できるようにしてもよい。

20

【0034】

キャスター30は、第1の収納部10及び第2の収納部20の底面にそれぞれ2個取り付けられている。このキャスター30が回転することで、スーツケース1を容易に移動させることができる。本実施形態は、1つのスーツケース1に対してキャスター30が4個設けられた4輪キャスタータイプである。但し、本実施形態のスーツケース1は、2輪キャスタータイプにし、コンパクト化を図ってもよい。また、キャスター30は、図7(a)に示すように、第1の収納部10及び第2の収納部20の底面にそれぞれ折り曲げて収納することも可能である。

30

【0035】

キャリアハンドル40は、第1の収納部10に取り付けられ、上下に伸縮可能なパイプを有している。

【0036】

トップハンドル50aは、第1の収納部10の上面上に取り付けられ、フロントハンドル50bは、第2の収納部20の上面上に取り付けられ、サイドハンドル50cは、第1の収納部10の側面上に取り付けられ（図2）、ボトムハンドル50dは、第2の収納部20の底面上に取り付けられている（図7(a)）。例えば、スーツケース1を横に倒してテーブルとして使用する際、トップハンドル50a又はフロントハンドル50bとボトムハンドル50dとを使用することで、スーツケース1の持ち易さを向上できる。

40

【0037】

台座60は、第1の収納部10の側面及び背面、第2の収納部20の側面上に設けられている。第1の収納部10の背面の四隅に設けられた台座60は、例えば、スーツケース1を横に倒してテーブルとして使用する際に有効に機能する。尚、図7(b)に示すように、台座60は、折り倒して収納するタイプにすることも可能である。

【0038】

ショルダーベルト70は、第1の収納部10の上面及び底面側の側面、第2の収納部20の上面に取り付けられている。ショルダーベルト70は、第1の収納部10及び第2の収納部20から取り外すことが可能である。ショルダーベルト70の詳細は、後述する。

【0039】

50

背中パッド８０は、第１の収納部１０の背面に取り付けられ、第１の収納部１０から取り外し可能となっている。背中パッド８０の詳細は、後述する。

【００４０】

ウエストベルト９０は、背中パッド８０に取り付けられ、背中パッド８０から取り外し可能となっている。ウエストベルト９０の詳細は、後述する。

【００４１】

〔２〕ショルダーベルト

図２は、本考案の一実施形態に係るスーツケースの概略的な側面図を示す。図３（ａ）及び（ｂ）は、本考案の一実施形態に係るスーツケースのショルダーベルトを説明するための図を示す。図３（ａ）は、本実施形態に係るスーツケースの上面図を示す。図３（ｂ）は、本実施形態ショルダーベルトの取り付け部の拡大図を示す。以下、本実施形態に係るスーツケースのショルダーベルトについて説明する。

10

【００４２】

図１、図２、図３（ａ）及び（ｂ）に示すように、本実施形態のショルダーベルト７０は、第１の収納部１０及び第２の収納部２０と３か所の取り付け部７１、７２、７３で取り付けられている。

【００４３】

第１の取り付け部７１において、ショルダーベルト７０は、第２の収納部２０の上面に連結具７４（７４ａ、７４ｂ、７４ｃ）で取り付けられている。連結具７４ａは、例えば、Ｄリングであり、第２の収納部２０に固定されている。連結具７４ｃは、例えば、Ｄリングであり、ショルダーベルト７０に取り付けられている。連結具７４ｂは、例えば、オーバル型（Ｏ型）のカラビナであり、連結具７４ａ及び７４ｃを連結し、取り外し可能になっている。

20

【００４４】

第２の取り付け部７２において、ショルダーベルト７０の一端は、第１の収納部１０の上面に留め具７５で取り付けられている。

【００４５】

第３の取り付け部７３において、ショルダーベルト７０の他端は、第１の収納部１０の底面側の側面に留め具７６で取り付けられている。ここで、留め具７６の位置は、第１の収納部１０の底面側の背面に取り付けることも可能であるが、第１の収納部１０の底面側の側面に設けることで、ショルダーベルト７０を使用してスーツケース１を背負った時に、スーツケース１の体へのフィット感を向上させることができる。

30

【００４６】

ショルダーベルト７０は、３か所の取り付け部７１、７２、７３から取り外すことが可能である。ショルダーベルト７０の不使用时に、第１の取り付け部７１の連結具７４ｂを連結具７４ａ又は７４ｃから外すことで、ショルダーベルト７０を後述するベルト収納ポケット８１に収納でき、連結具７４ｂを連結具７４ａ又は７４ｃに連結することで、ショルダーベルト７０のたるみを無くすることができる。

【００４７】

第２の取り付け部７２及び第３の取り付け部７３における留め具７５、７６は、第１の収納部１０の背面側付近に設けられている。これにより、ショルダーベルト７０の使用時にスーツケース１０と使用者の背中とのフィット感を高めることができる。

40

【００４８】

一方、第１の取り付け部７１における連結具７４は、第２の収納部２０側の上面に設けられている。これにより、ショルダーベルト７０の不使用时に、ショルダーベルト７０を引っ張って連結具７４で留めることで、ショルダーベルト７０のたるみを無くすることができる。

【００４９】

尚、連結具７４ａは、第２の収納部２０に固定されることに限定されない。例えば、連結具７４ａは、第２の収納部２０に取り付けられるが、第２の収納部２０の厚さ方向に移

50

動可能な可動式であってもよい。この場合、ショルダーベルト 70 を引っ張って連結具 74 で留める際に、ショルダーベルト 70 の長さの微調整をショルダーベルト 70 だけでなく、連結具 74 a を移動させることでも可能となる。

【0050】

ショルダーベルト 70 は、チェストベルト 77 を有している。チェストベルト 77 を用いることで、両側のショルダーベルト 70 の肩からのずれ落ちを抑制することができる。ショルダーベルト 70 は、複数のループ状のフック部 78 を有している。フック部 78 には、様々な物を引っ掛けることができる。

【0051】

【3】背中パッド及びウエストベルト

図 4 は、本考案の一実施形態に係るスーツケースの背面図を示す。図 5 (a) は、本考案の一実施形態に係る背中パッドを取り外した状態のスーツケースの背面図を示す。図 5 (b) は、本考案の一実施形態に係るスーツケースの背中パッド及びウエストベルトの概略図を示す。図 6 (a) 及び (b) は、本考案の一実施形態に係る背中パッド及びウエストベルトの内側図及び外側図を示す。以下、本実施形態に係るスーツケースの背中パッド及びウエストベルトについて説明する。

【0052】

図 4、図 5 (a) 及び (b)、図 6 (a) 及び (b) に示すように、本実施形態の背中パッド 80 は、第 1 の収納部 10 の背面に取り付けられ、第 1 の収納部 10 から取り外し可能となっている。背中パッド 80 は、通気性が高く熱がこもりにくい素材（例えば、メッシュ）で形成され、快適な装着感を保つことができる。

【0053】

背中パッド 80 は、ショルダーベルト 70 を収納可能なベルト収納ポケット 81 を有している。ベルト収納ポケット 81 は、例えば、背中パッド 80 の中央に位置しているが、背中パッド 80 の上方寄りに位置する等、種々変更可能である。

【0054】

ベルト収納ポケット 81 の前面には、ウエストベルト 90 を収納可能なホールドベルト 82 が設けられている。ホールドベルト 82 は、例えば、伸びやすいゴムで縦方向に 2 本形成され、ウエストベルト 90 を容易に収納できるようになっている。

【0055】

背中パッド 80 は、第 1 の収納部 10 とファスナー 83 で取り付けられ、このファスナー 83 をスライドさせることで第 1 の収納部 10 から取り外し可能となっている。背中パッド 80 を取り外せることで、背中パッド 80 の洗濯が可能となり、清潔感を保持することができる。

【0056】

ファスナー 83 の一方は、背中パッド 80 の両側にそれぞれ設けられている。ファスナー 83 の他方は、ファスナー取り付け部材（留め具取り付け部材）84 に設けられている。このファスナー取り付け部材 84 は、例えば布製であり、固定具 85 で第 1 の収納部 10 に固定されている。この固定具 85 は、キャリーハンドル 40 を留める金属製のネジと同様のネジ等を用いてもよい。

【0057】

ウエストベルト 90 は、背中パッド 80 の下方の両側にファスナー 91 で取り付けられ、このファスナー 91 をスライドさせることで背中パッド 80 から取り外し可能となっている。ウエストベルト 90 を取り外せることで、ウエストベルト 90 の洗濯が可能となり、清潔感を保持することができる。

【0058】

図 6 (b) に示すように、背中パッド 80 の外側面は、第 1 の収納部 10 に対向する面である。この背中パッド 80 の外側面の両側には、第 1 の収納部 10 から取り外し可能なファスナー 83 が設けられている。

【0059】

10

20

30

40

50

ウエストベルト 90 の外側面は、例えばファスナーで開閉するポケット 92 が設けられている。ウエストベルト 90 の端には、ストラップ 93 a 及び 93 b がそれぞれ設けられている。ストラップ 93 a 及び 93 b は開閉可能になっており、ストラップ 93 a 及び 93 b を閉じることで、使用者の腰にウエストベルト 90 を固定することができる。

【0060】

尚、ファスナー 83、91 は、取り外し可能な留め具であれば、例えば、マジックテープ（登録商標）、ボタン等の他の留め具であってもよい。

【0061】

〔4〕ショルダーベルト及びウエストベルトの収納方法

図 8 は、本考案の一実施形態に係るスーツケースのウエストベルトをホールドベルトに収納した状態の背面図を示す。図 9 は、本考案の一実施形態に係るスーツケースのショルダーベルトをベルト収納ポケットに収納した状態の背面図を示す。尚、図 8 及び図 9 は、チェストベルト 77、フック部 78、ポケット 92、ストラップ 93 a 及び 93 b 等を省略した概略図となっている。以下、本実施形態に係るスーツケースのショルダーベルト及びウエストベルトの収納方法について説明する。

【0062】

図 8 に示すように、本実施形態のスーツケース 1 では、ウエストベルト 90 の不使用時、ウエストベルト 90 をファスナー 91 の位置で折り畳み、ウエストベルト 90 をホールドベルト 82 に挿入する。これにより、ウエストベルト 90 を収納することができる。

【0063】

また、スーツケース 1 をリュックとして使用する場合は、第 1 の取り付け部 71 において、連結具 74 b を連結具 74 a 又は 74 c から外し、ショルダーベルト 70 が第 1 の取り付け部 71 から取り外されている。このため、図 8 に示すように、ショルダーベルト 70 が弛んだ状態となっている。そこで、図 9 に示すように、本実施形態のスーツケース 1 では、ショルダーベルト 70 をベルト収納ポケット 81 に挿入する。これにより、ショルダーベルト 70 を収納することができる。

【0064】

尚、ウエストベルト 90 の収納は、ホールドベルト 82 を用いることに限定されない。例えば、ウエストベルト 90 の折り畳み方向を逆にし、ウエストベルト 90 を背中パッド 80 と第 1 の収納部 10 との間に収納してもよい。

【0065】

〔5〕効果

本実施形態に係るスーツケース 1 では、第 1 の収納部 10 の背面に背中パッド 80 が取り付けられ、この背中パッド 80 にベルト収納ポケット 81 が設けられている。そして、ショルダーベルト 70 の不使用時には、ショルダーベルト 70 をベルト収納ポケット 81 に入れることができる。これにより、本実施形態のスーツケース 1 では、ショルダーベルト 70 を取り外さずに容易に収納することが可能である。

【0066】

また、本実施形態に係るスーツケース 1 では、第 1 の取り付け部 71 における連結具 74 は、第 2 の収納部 20 側の上面に設けられている。これにより、ショルダーベルト 70 の不使用時に、ショルダーベルト 70 を引っ張って連結具 74 で留めることで、ショルダーベルト 70 のたるみを無くすることができる。これにより、ショルダーベルト 70 が垂れ下がって地面と接して汚れたり、キャスター 30 でショルダーベルト 70 を踏んでしまったりすることを防止できる。

【0067】

尚、本考案の実施形態を説明したが、この実施形態は、例として提示したものであり、考案の範囲を限定することは意図していない。これら新規な実施形態は、その他の様々な形態で実施されることが可能であり、考案の要旨を逸脱しない範囲で、種々の省略、置き換え、変更を行うことができる。

【符号の説明】

10

20

30

40

50

【 0 0 6 8 】

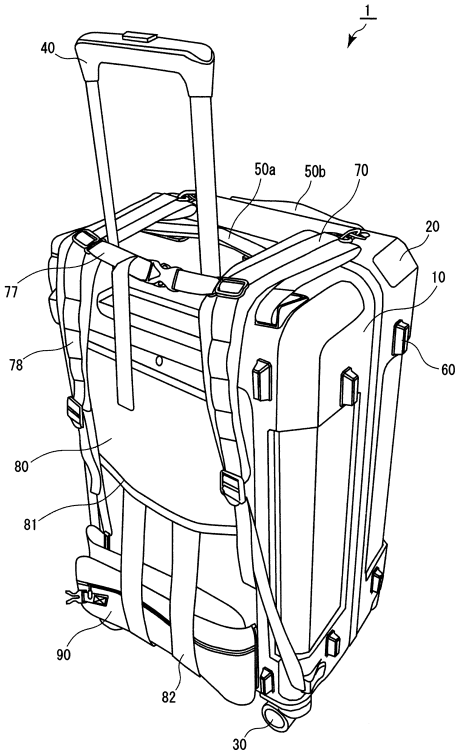
1 … スーツケース	
1 0 … 第 1 の収納部	
2 0 … 第 2 の収納部	
3 0 … キャスター	
4 0 … キャリーハンドル	
5 0 a … トップハンドル	
5 0 b … フロントハンドル	
5 0 c … サイドハンドル	
5 0 d … ボトムハンドル	10
6 0 … 台座	
7 0 … ショルダーベルト	
7 1 … 第 1 の取り付け部	
7 2 … 第 2 の取り付け部	
7 3 … 第 3 の取り付け部	
7 4 、 7 4 a 、 7 4 b 、 7 4 c … 連結具	
7 5 、 7 6 … 留め具	
7 7 … チェストベルト	
7 8 … フック部	
8 0 … 背中パッド	20
8 1 … ベルト収納ポケット	
8 2 … ホールドベルト	
8 3 、 9 1 … ファスナー	
8 4 … ファスナー取り付け部	
8 5 … 固定具	
9 0 … ウエストベルト	
9 2 … ポケット	
9 3 a 、 9 3 b … ストラップ	

30

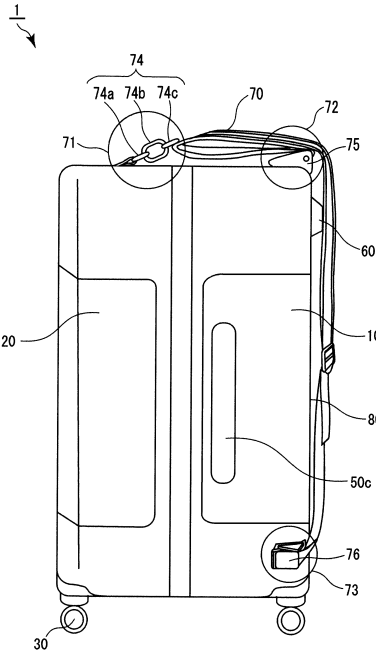
40

50

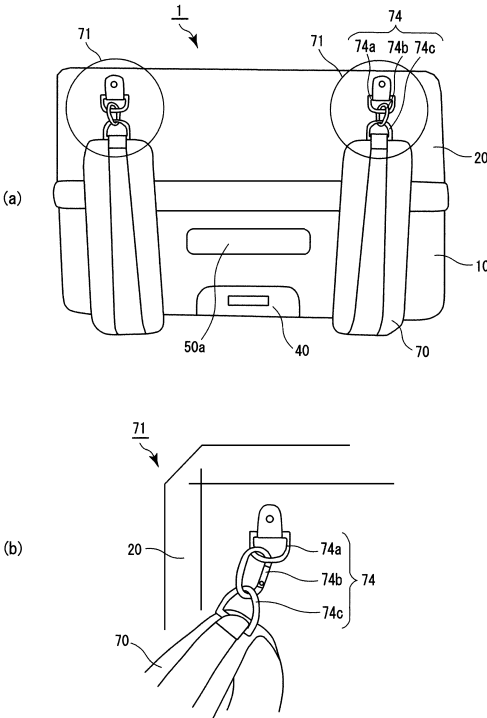
【図面】
【図 1】



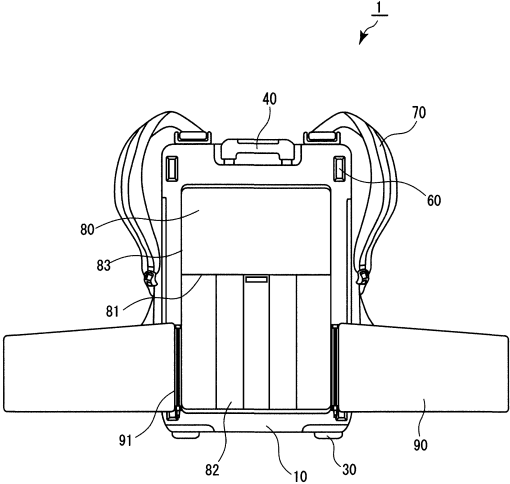
【図 2】



【図 3】



【図 4】



10

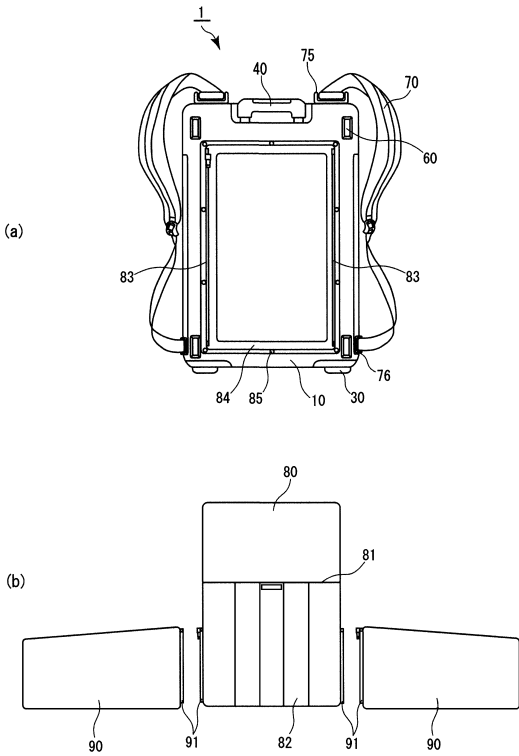
20

30

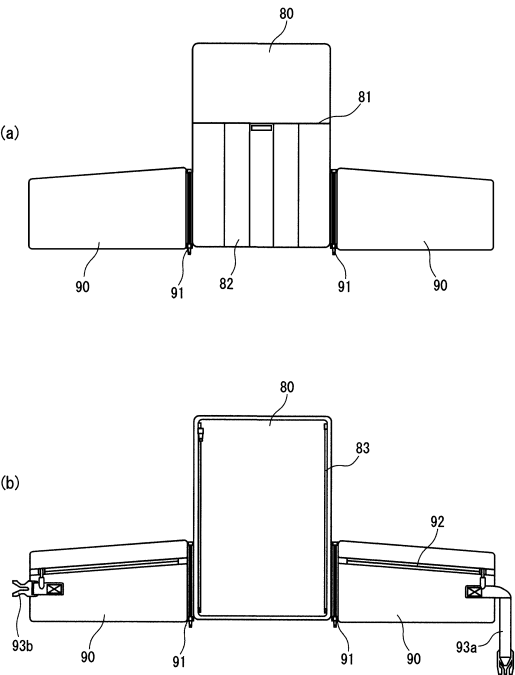
40

50

【図 5】



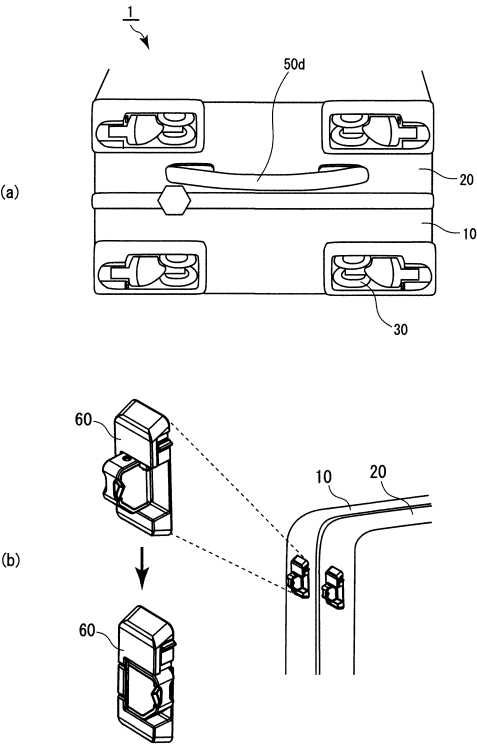
【図 6】



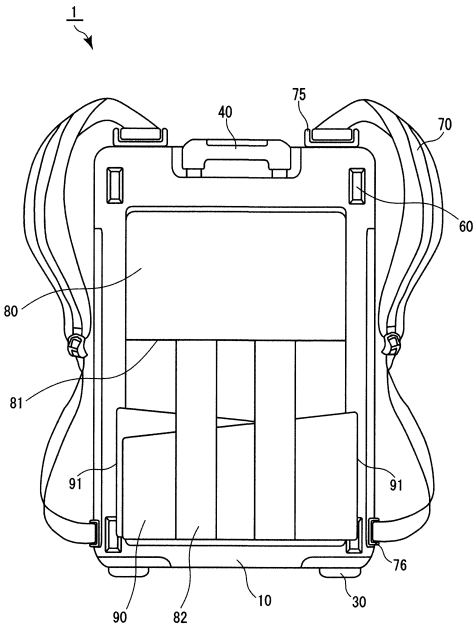
10

20

【図 7】



【図 8】

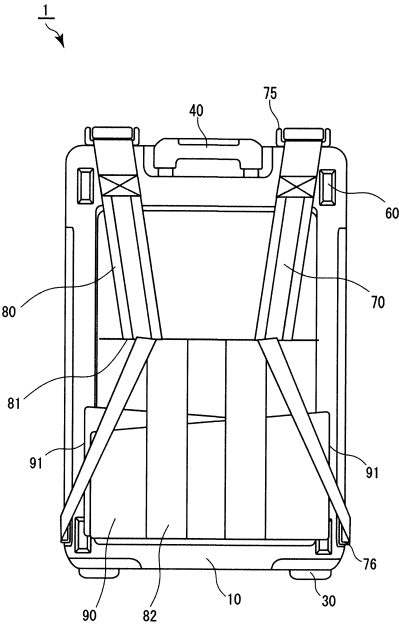


30

40

50

【図 9】



10

20

30

40

50

【手続補正書】

【提出日】令和6年10月10日(2024.10.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】請求項9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項9】

前記留め具は、前記背中パッドの両側にそれぞれ設けられていることを特徴とする請求項5に記載のスーツケース。

10

【手続補正2】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】請求項10

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項10】

前記背中パッドは、前記第1の収納部の前記背面から取り外し可能であることを特徴とする請求項1に記載のスーツケース。

【手続補正3】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】請求項11

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項11】

前記背中パッドは、メッシュ製であることを特徴とする請求項1に記載のスーツケース。

20

【手続補正4】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】請求項12

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項12】

前記ベルト収納ポケットは、前記背中パッドの中央に位置していることを特徴とする請求項1に記載のスーツケース。

30

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

前記スーツケースにおいて、前記留め具は、前記背中パッドの両側にそれぞれ設けられていてもよい。

40

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

前記スーツケースにおいて、前記背中パッドは、前記第1の収納部の前記背面から取り外し可能であってもよい。

50

【手続補正 7】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0016
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0016】

前記スーツケースにおいて、前記背中パッドは、メッシュ製であってもよい。

【手続補正 8】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0017
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0017】

10

20

30

40

50

フロントページの続き

社内